学校教育目標　「心は一つ八景小！ 自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い豊かに生きることができるようにします」

7月 学校だより

令和5年6月30日
横浜市立八景小学校
校 長 中川 琴似

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hakkei/

「楽しい時間を」

教務主任　島原　祥徳

今年度も巻頭言の依頼を受けました。「あれ？前回書いたのにもう１年経ったのか！」と時が経つのを早く感じた今日この頃です。みなさんも、あっという間に１日が終わり、気が付けば１年が過ぎるのが非常に早いなと感じられた経験があると思います。実は、これは「ジャネーの法則」によるものだそうです。この法則を分かりやすく説明すると、歳を取るにつれて自分の人生における「１年」の比率が小さくなるため、体感として１年が短く、時間が早く過ぎるように感じるとのこと。１歳の乳児が感じる１年の体感時間を３６５日とすると、１２歳の６年生は３０日、私の場合はなんと８日となるそうです。これは確かに早く感じるわけです。

先日６年生の国語で「時計の時間と心の時間」という学習をしました。楽しいことを夢中になって行っている時は、時間があっという間に経つように感じ、楽しくないことや退屈なことを行っている時は、時間が経つのが遅く感じる、というのです。その時の気持ちと、時間を気にする（時計を見る）回数によって経過する時間の早さに違いが生じる、ということを学びました。子どもたちは、「分かる！」「自分もそういう経験ある！」と筆者の主張に共感していました。学習の振り返りでは、「楽しいことをしている時は、時計を何度も見るようにして、部屋の掃除をしている時は時間を気にしないようにしたいです。」と書いている子もおり、「確かに！」と納得させられました。楽しいことをしている時はより長く時間を感じたいものですからね。

子ども達は、３６５日の中で、約２００日を学校で生活します。その期間を「退屈な、つまらない日々」ではなく「楽しい、明日も学校に来て勉強したり友達と過ごしたりしたい！」と思え、「今日１日が楽しくてあっという間だった！」と思えるような教育活動を保護者や地域の方々の力をお借りしながら、共に創っていきたいと思います。私自身も、加齢による月日の経つ早さを感じるのではなく、「子ども達と夢中になって楽しく過ごしてきたからあっという間だった！」と思えるような１年にしていきたいと思います。

楽しく夢中になる時間はあっという間に…